

季
刊

まんだらげ



和歌山県立医科大学附属病院広報誌

Vol. **78**

2026
AUTUMN



特 集

泌尿器疾患の最新治療 (ロボット支援仙骨脛固定術、プルヴィクト治療)

金剛峯寺・蟠龍庭(高野町)

CONTENTS

Topics

- 就任の挨拶(人体病理学講座・小島教授)
- 一刻を争う急性心筋梗塞に挑む
～Hybrid ERと高度カテーテル治療～

Information

- 2026年度熊本地震 被災地へのDMAT派遣
- 青洲基金への寄附に対する感謝状贈呈式
- がんプロ市民公開講座の開催
「あなたとがんプロフェッショナルで作る治療」
- がん細胞だけを狙わない新しい卵巣がん治療への挑戦

【理 念】

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

【基本方針】

1. 患者さんとの信頼関係を大切に、十分な説明と理解に基づく同意を得て、安全な医療を行います。
2. 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
3. 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
4. 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲(はなおかせいしゅう)が全身麻酔薬として用いた植物「曼荼羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

泌尿器疾患 の最新治療



▲手術風景

ロボット支援仙骨脛固定術

① ロボット支援仙骨脛固定術について

当院泌尿器科では、2026年2月から、骨盤臓器脱に対するロボット支援仙骨脛固定術を開始しました。泌尿器科では、前立腺がん、膀胱がん、腎がんなどに対するロボット支援手術を積極的に行ってきました。これまで培ってきた経験と技術をロボット支援仙骨脛固定術にも生かし、安全で質の高い治療を提供するとともに、骨盤臓器脱に悩む患者さんのQOL（生活の質）の向上に貢献してまいります。

② 骨盤臓器脱とは？

骨盤臓器脱は、加齢や出産などによって骨盤の底を支える筋肉や靱帯が緩み、子宮や膀胱、直腸などの骨盤内臓器が腔から下垂する病気です。「股の間に何か下がってくる」「長時間立っていると違和感がある」といった症状に加え、尿が漏れる・出にくい、排便しにくいなど、排尿・排便にも影響を及ぼすことがあります。高齢化に伴い患者さんの増加が予想される一方、恥ずかしさから受診をためらい、一人で悩まれている方も少なくありません。

③ 骨盤臓器脱の治療法

軽症の場合には骨盤底筋体操やペッサリーによる治療が行われますが、症状が強い場合には手術が選択肢となります。仙骨脛固定術は、下垂した腔や骨盤内臓器を人工メッシュを用いて仙骨に固定し、本来の位置に戻す手術です。従来は開腹手術や腹腔鏡手術で行われてきましたが、近年ではロボット支援手術が普及しつつあります。

④ ロボット支援仙骨脛固定術のメリット

ロボット支援手術では、高精細な3D画像と自由度の高い多関節鉗子により、骨盤の深い場所でも精緻で安定した操作が可能です。小さな創（きず）で手術を行うことができ、出血や術後の痛みを抑え、早期の回復が期待できます。

手術のしくみ

お腹の数か所に小さな穴をあけ、ロボットを使ってメッシュを正確に配置します。

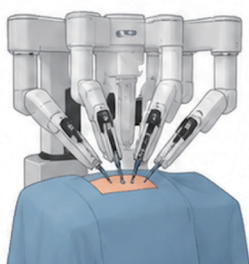
① 小さな切開

おへその周囲などに数か所（通常4～5か所）の小さな穴をあけます。



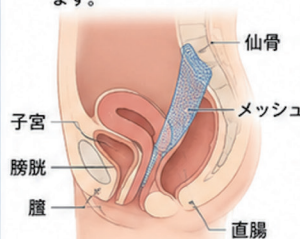
② ロボットを使用

ロボットアームを用いて、骨盤内を高精細な映像で確認しながら手術を行います。



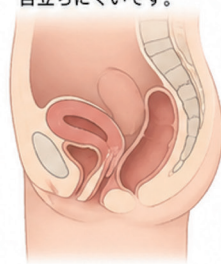
③ メッシュを留置

メッシュ（人工補強材）を仙骨と腔の上部に固定し、骨盤臓器をしっかり支えます。



④ 手術完了

メッシュでしっかりと支え、臓器の下垂を改善します。小さな切開なので、傷跡が目立ちにくいです。



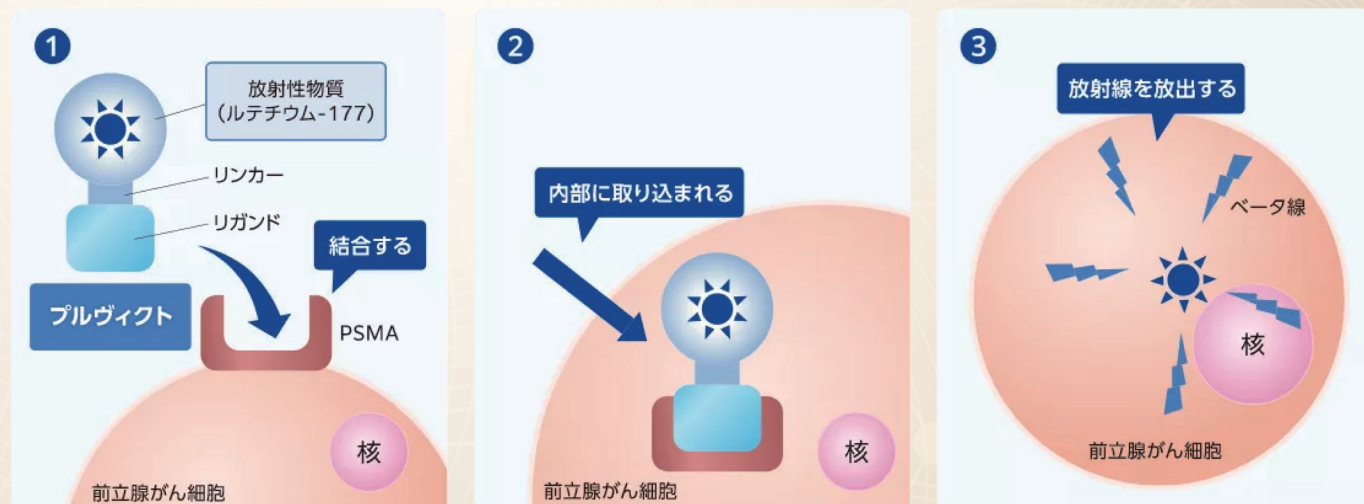
プルヴィクト治療

① プルヴィクト治療について

当院では2026年4月からプルヴィクト治療が行えるようになりました。「前立腺がん(去勢抵抗性前立腺がん)」に対して行われる、放射線を用いた新しいタイプの治療法です。前立腺がんは、進行すると骨やリンパ節など他の部位に転移や再発を起こすことがあります。

このがん細胞の特徴として、細胞の表面に「PSMA

(前立腺特異的膜抗原)」という目印が多く存在します。この目印を利用して、がん細胞を狙い撃ちする治療です。プルヴィクトは、PSMAにくっつく物質に、「ルテチウム177」という放射線を出す物質を結合させたもので、体内に入ると、がん細胞に集まり、細胞の内側から放射線を当てて増殖を抑えます。



(ノバルティスファーマ株式会社ホームページから抜粋)

② からだにやさしい“ピンポイント治療”

一般的ながん治療では、正常な細胞にも影響が及ぶことがあります。プルヴィクト治療で使われる放射線は、体内で届く距離が非常に短く、がん細胞の周囲にある正常な細胞への影響が比較的少なくなります。骨やリンパ節などに複数の転移がある場合でも、同時に治療できる利点もあります。

④ 副作用と注意点

副作用としては、だるさ、口の渇き（ドライマウス）、吐き気、食欲低下、血液中の成分の一時的な減少（貧血など）、腎機能低下などですが、多くは適切な対策で対応できます。唾液腺にもPSMAが存在するため、口の渇きが起こりやすいのが特徴の一つです。



③ 治療の流れと入院について

治療を受ける前には、この治療に適しているか（PSMAが多く存在するかどうかの検査など）、血液や肝臓、腎臓に問題がないかなど、詳しい検査が必要です。通常、6週間ごとに1回、最大で計6回の投与が行われます。放射線がでるため、治療時には特別な設備のある病室に入院します。通常は、投与後1～2日程度で体内から出る放射線量が基準以下になり、退院できます。薬剤は主に尿から体外に排出されるため、医師からの指示に従った生活が必要です。

⑤ おわりに

プルヴィクト治療は、これまでのホルモン治療や抗がん剤治療で十分な効果が得られなくなった前立腺がんの患者さんにとって、新たな選択肢となる治療法です。治療の適応や効果、副作用には個人差があるため、主治医と十分に相談することが大切です。

教授就任挨拶

質の高い病理診断を和歌山県内の皆様に提供することを目指して



人体病理学講座
教授 小島 史好

2026年6月1日付けで和歌山県立医科大学人体病理学講座教授を拝命しました。就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

人体病理学講座は大学附属病院の病理診断科の業務を兼務しており、患者さんから採取した組織や細胞を観察することにより、腫瘍を中心に疾患の確定診断を行っています。私たち病理医が直接患者さんを診ることはありませんが、病理検体を通して、患者さんの診断・治療に深く関わっています。病理診断は治療の根幹であり、その結果に基づき治療計画が立てられます。近年は、分子標的薬の適応に関するコンパニオン診断、包括的がんゲノムプロファイリング検査用検体の評価など治療に直結する業務が増え、医療現場における病理医の役割は年々増えています。このように病理医の役割は増しているところですが、和歌山県下の病院にはまだ十分な病理医が配置されているとはいえない状況です。和歌山県下において、質の担保された病理診断を提供するために、病理医の育成と充足を目指してまいりますので、ご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

経 歴

- 2003年 3月 滋賀医科大学 卒業
- 2003年 5月 京都大学医学部附属病院 研修医
- 2005年 2月 滋賀医科大学医学部附属病院 検査部
- 2011年 4月 大阪府済生会千里病院 病理診断科
- 2014年12月 和歌山県立医科大学人体病理学講座 講師
- 2021年 4月 和歌山県立医科大学人体病理学講座 准教授
- 2026年 6月 和歌山県立医科大学人体病理学講座 教授

診 療 内 容

全身諸臓器、各診療科から採取された全身の組織、細胞に対する病理診断、細胞診断を行っています。正確な診断、検査・解析につなげるための適切な検体の管理を心がけています。当施設は和歌山県の基幹病院であり、当施設に紹介された患者さんの、近隣の施設で採取された病理検体を見直し、正確な診断に基づいた治療が提供できるよう精度管理に努めています。

また、患者さんの治療のための病理検体を用いた検査に使用する提出検体の質と量の評価、検査結果の評価を行っています。手術中に採取した組織や細胞を診断し、手術方針の決定に寄与する術中迅速診断も行っています。

さらに、今後の医療の発展や病態解明を目的として、院内や近隣の施設でお亡くなりになった患者さんの病理解剖を行っています。

なお、当教室は泌尿器腫瘍の研究、特に腎腫瘍の研究に力を入れており、全国から腎腫瘍の組織診断困難症例の相談を受け、これらに対し腎腫瘍病理のエキスパートとして組織診断を行っています。



▲ 病理診断科・病理検査室のスタッフ

一刻を争う急性心筋梗塞に挑む ～Hybrid ERと高度カテーテル治療～

超高齢社会を迎え、心臓の筋肉に栄養や酸素を届ける冠動脈の閉塞や狭窄による虚血性心疾患は増加傾向にあります。中でも「急性心筋梗塞」は一分一秒を争う重篤な病態です。病院到着後、いかに素早く心臓カテーテル治療を行い、閉塞した冠動脈の血流を再開させるかが、患者さんの命やその後の心機能を大きく左右します。

この「時間との勝負」に打ち勝つため、当院では2026年4月より和歌山県内で初となる「Hybrid ER」システムを導入しました。Hybrid ERとは、救急初期治療ベッド・CT撮影装置・血管造影装置・手術台が一体化した診療空間です。従来必要だった検査室や治療室への移動をなくし、同一ベッド上で初期診療から画像検査、カテーテル治療や、必要があれば外科手術までをシームレスに行うことができます。これにより、病院到着から冠血流再開までの時間を極限まで短縮し、心筋ダメージの最小化を目指します。

さらに当院の強みは、単なる応急処置にとどまらず、緊急下であっても通常のカテーテル室と同等レベルの高度なカテーテル治療を提供できる点です。近年、加齢によりカルシウム成分が血管壁に沈着し硬化する「高度石灰化病変」が増加し

ており、従来のバルーン（風船）やステントによる治療だけでは拡張が困難な場合があります。当院では、石灰化病変を削り取る「ロータブレーター」や「ダイヤモンドバック」、衝撃波で石灰化を粉砕する「ショックウェーブ」などの各種医療機器をHybrid ER内に常備し、塩野講師および江守助教を中心とする多職種チームが即座に対応できる体制を構築しています。

高度なカテーテル治療の実績と、Hybrid ERによる迅速な救急診療体制を融合させ、緊急時であっても治療困難な病変に対して妥協のない質の高い治療を提供いたします。和歌山県民の皆様の生命と心臓を守るため、私たちはチーム一丸となり、安全で質の高い医療の提供に邁進してまいります。



▲ 塩野講師、江守助教を中心とするHybrid ERの心臓カテーテルチーム

当院におけるHybrid ERでの 心臓カテーテル治療

【Hybrid ERシステム】

① 救急搬入

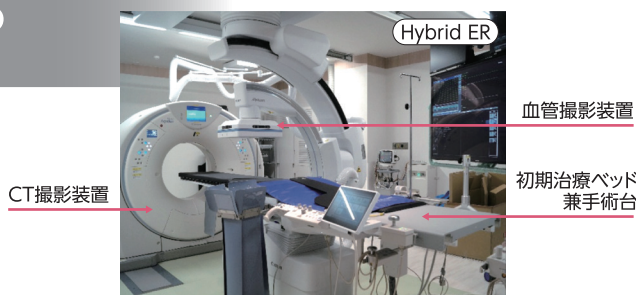
移動不要

② そのまま 心電図、心エコー、CT検査

移動不要

③ そのまま 心臓カテーテル検査治療

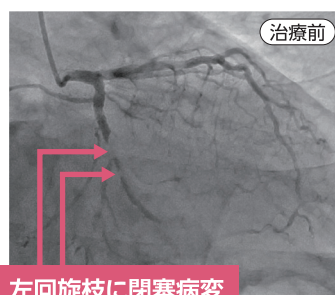
病院到着から
冠血流再開までの時間を
大幅に短縮！



CT撮影装置

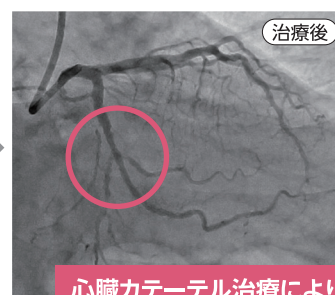
血管撮影装置

初期治療ベッド
兼手術台



治療前

左回旋枝に閉塞病変



治療後

心臓カテーテル治療により
良好な冠血流改善を認めた

2026年度熊本地震 被災地へのDMAT派遣について

2026年度熊本地震で被災された皆さま並びにご家族の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

当院では、厚生労働省DMAT（災害派遣医療チーム）※ 事務局からの派遣要請により、5名（医師2名、看護師2名、業務調整員1名）を派遣しました。

DMAT隊員は8月1日に出発し、8月2日から4日間、八代市及び氷川町内で支援活動を実施しました。現地活動拠点本部における災害医療に係る調整業務をはじめ、被災した医療機関の機能維持や現地医療従事者の負担軽減を目的とした診療代行業務などに取り組みました。

また、8月17日には当院にて帰任報告会を開催し、病院長等に対して活動実績や現地の状況を報告いたしました。

今後も当院としての役割を果たし、被災地の復興に向けた支援を継続してまいります。

※DMATとは、大規模災害等で被災地に迅速に駆けつけ、救命治療や医療支援を行う専門的な訓練を受けた医療チームです。



▲出発式（8月1日）



▲当院のDMATカーで現地向けて出発する様子



▲帰任報告会（8月17日）

青洲基金への寄附に対する感謝状贈呈式を執り行いました

和歌山県立医科大学では、「地域を支え、世界に挑む」をモットーに、医療系総合大学としての更なる発展を目指し、「和歌山県立医科大学青洲基金」を設置しております。

このたび、本基金に対し、南海土地株式会社様及び株式会社今川商店様からご寄附を賜り、2026年6月29日に感謝状贈呈式を執り行いました。

贈呈式では、両社の代表取締役を務める今川幸藏様から、中尾直之理事長に寄附目録をご贈呈いただき、その後、中尾理事長から今川幸藏様に感謝状を贈呈いたしました。

いただいたご寄附は、附属病院の環境整備事業に有効に活用させていただきます。



▲（左より）監査役 南方好子様、中尾直之理事長、代表取締役 今川幸藏様、常務取締役 今川雄貴様

現地会場
+
Zoom配信

和歌山県立医科大学 がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン

市民公開講座 「あなたとがんプロフェッショナルで作る治療」

～後悔しないがん治療選択のヒント、SDM:シェアードデシジョンメイキングとは～

■開催日時 2027年1月23日(土) 13:00～15:10 ※開場12:30

■開催場所 和歌山県立医科大学 伏虎キャンパス 北棟1階 大講義室
(和歌山市七番丁25-1/和歌山城ホール隣接) ※紀三井寺ではありません。

参加無料

Zoomによる
同時配信あり

■講演 ①がん治療、どう選ぶ? ～後悔を少なくするための『一緒に決める医療』SDM～

講師:NPO法人肺がん患者の会ワンステップ理事長 長谷川 一男 先生

②白衣を脱いだ医師の本音 ～失敗から考える『一緒に決める』治療のカタチ～

講師:近畿大学医学部腫瘍内科/ゲノム医療センター医学部講師 高濱 隆幸 先生

参加方法

Zoomでの参加

●事前申込必要

スマホ等で右のQRコードを読み込んで、Zoom参加用申込フォームから、2027年1月22日(金)までにお申し込みください。



▲
事前申込は
コチラから

現地での参加

●事前申込不要

スマホで場所を確認▶

現地会場まで直接お越しください。

※現地参加で 手話・要約筆記・その他配慮が必要な方は、メール、FAX、ハガキのいずれかに①氏名、②電話番号、③配慮が必要な内容 をご記入の上、2026年12月23日(水)までに下記の連絡先までご連絡ください。



【連絡先】公立大学法人 和歌山県立医科大学 経理課 【担当:中谷】

〒641-8509 和歌山市紀三井寺811-1 TEL:073-441-0516 FAX:073-441-0706 メール:ganpro@wakayama-med.ac.jp

がん細胞だけを狙わない 新しい卵巣がん治療への挑戦

卵巣がんは再発しやすく、治療が難しいがんの一つです。従来はがん細胞そのものを攻撃する抗がん剤治療が中心でしたが、私たち産科・婦人科学講座と法医学講座は、がん細胞を取り巻く「がん微小環境」に着目し、新たな治療法の開発を目指して研究を行いました。

がん組織にはさまざまな免疫細胞が集まります。中でもマクロファージは、本来は体を守る免疫細胞ですが、がん組織内では性質が変化し、がんの増殖や進展を助けることがあります。今回の研究から、卵巣がん細胞が産生するCX3CL1という物質によってマクロファージががん組織に集まり、がんの進行を促していることが明らかになりました。

CX3CL1を標的としてマクロファージの集積を

抑えることで、卵巣がんの進行を抑制できる可能性があります。今後、既存の抗がん剤と組み合わせ、より効果的な新しい治療法の開発につなげたいと考えています。



▲(左より)法医学講座 國中特別研究員、石田准教授、近藤教授
産科・婦人科学講座 堀内講師

和歌山県立医科大学の
最新の研究内容をより詳しく知りたい方は
公式HPの広報ページをご覧ください。



和歌山県立医科大学 広報 検索

掲 示 板

予約センター からの お知らせ

～診察予約のご案内(初めて受診される方へ)～

当院の外来受診は、原則として「診療情報提供書(紹介状)」をお持ちの方による「予約制」とさせていただきます。ご予約は、かかりつけの医療機関等からFAXでお申し込みください。患者さんからの電話による初診予約はお受けできませんので、ご了承ください。※2026年10月より連携登録医を対象にWEBによる初診予約システムを導入します。詳細は当院のホームページをご参照ください。

■ ご予約の流れ

- 1 かかりつけの医療機関等から当院所定の「紹介予約申込書」と「診療情報提供書(紹介状)」を予約センターあてにFAX送信してください。診療情報提供書がすぐにご用意できない場合は、予約申込日(かかりつけの医療機関等で予約を行った日)から概ね3日までを目途にFAX送信をお願いします。
- 2 予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信します。夜間・休日の場合は翌平日の対応になります。
- 3 予約当日は、予約票・診療情報提供書(紹介状)・画像データ(必要時)・マイナ保険証または資格確認書・診察券(受診歴のある方)・各種医療券・常用薬・お薬手帳を持参のうえ、各診療科外来受付に直接お越しください。
- 4 予約日の変更は、当院予約センターにご本人からのお電話で受け付けさせていただきます。ただし、検査予約の変更については、当院の代表番号(073-447-2300)から各診療科外来へ平日15:00～17:00におかけください。

予約センター(患者支援センター)

FAX(医療機関専用)・・・073-441-0805
【受付時間】月・火・水・金…9:00～19:00
 木……………9:00～17:00
 (土・日・祝日・年末年始を除く)

TEL(患者さんから予約変更専用)・・・073-441-0489
【受付時間】月～金…8:30～16:00(土・日・祝日・年末年始を除く)
 ※「痔がんドック」及び「がん検診後の2次検査」の予約については、
 上記予約変更専用番号にてご予約が可能です。

外来アプリのご案内

病院外来アプリ「Sma-pa」のインストールにより会計の計算完了済みの番号や外来の順番をスマートフォンでご覧いただけます。院内売店や喫茶店、駐車場など、ご自由な場所で順番を確認できます。
 また、事前にクレジットカードを登録することで、外来診療後に会計を待たずにすぐにお帰りがいただくことができます。
 (後払いを利用される場合は、来院毎に受付が必要です。)
 詳細は右記ホームページをご確認ください。



**お会計を待たずに
すぐに帰れます!**

医療費後払いサービス

手数料
0円

今すぐ
使える!

かんたん
操作

詳細はこちら



患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

1. 個人として尊厳と人格が尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
2. 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
3. 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
4. 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
5. 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診療をお断りすることや退去を求めることがあります。
 著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

1. 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
2. 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
3. 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
4. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
5. 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願いいたします。
6. 医師、看護職員、病院職員に対する謝礼、贈答品は固くお断りしています。

和歌山県立医科大学附属病院広報誌「まんだらげ」(vol.78)

2026年10月発行 発行/和歌山県立医科大学附属病院
 〒641-8510 和歌山市紀三井寺811-1

TEL 073-447-2300
FAX 073-441-0706

ホームページアドレス
<https://www.wakayama-med.ac.jp/hospital>
 「まんだらげ」はホームページからもご覧いただけます。



— 外来受付時間 —

- 受付時間: 午前8時50分～午前11時30分
 - 再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
 - 休診日: 土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。

次号発行は
**2027年
 1月です。**